

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースのNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

（研究分担者 下瀬川徹・東北大学大学院消化器病態学分野・教授）
（研究協力者 水間正道・東北大学病院肝・胆・膵外科・院内講師）

研究要旨

日本膵臓学会が作成している膵癌診療ガイドライン2013年版から代表的なClinical Question (CQ) を抽出し、NCD参加施設を対象に、そのCQの遵守状況をウェブアンケートで調査した。749の膵癌診療科から回答が得られ、遵守率が良好なものから低いものまで認められた。NCDを応用したウェブアンケート調査は、癌診療ガイドライン遵守状況の調査に有用である可能性がある。

<p>A. 研究目的 日本膵臓学会は2006年に膵癌診療ガイドラインを作成し、以後改訂作業を繰り返してきた。NCD参加施設を対象に膵癌診療ガイドライン2013年版においてガイドラインの遵守状況を調査することを目的とした。</p> <p>B. 研究方法 膵癌診療ガイドライン2013年版の代表的なClinical Question (CQ) を6項目抽出し（1. 膵癌の診断におけるCT, MRIでの造影剤の使用、2. 膵癌の診断で3テスラ以上のMRI検査の実施、3. 膵癌取扱い規約第6版StageIVaを手術適応としているか、4. 術後補助化学療法としてのS-1の使用、5. 局所進行切除不能膵癌に対する化学（放射線）療法の実施、6. 切除不能膵癌に対する一時治療としてゲムシタビン、ゲムシタビン+エルロチニブ、S-1いずれかによる治療の実施）、NCD参加施設を対象とし、抽出したCQを施設として推奨しているかウェブアンケートで調査した。</p> <p>C. 研究結果 749のNCD参加診療科からの回答が得られた。抽出した項目において施設として特に推奨していないと回答した率は（上記Bの項目で記述）、1：0.4%、2：38.5%、3：9.1%、4：17.8%、5：8.8%、6：6.5%であった。</p> <p>D. 考察 ガイドラインで推奨している3テスラ以上のMRI検査を実際に推奨している施設は60%程度しかないことが明らかとなったが、これは3テスラ以上のMRIを保有していない施設も多いことが反映していると考えられる。その他の項目はおおむね遵守率が良好であることが明らかとなった。NCD参加施設を対象としたため、回答した施設の多くは外科施設であり、結果の解釈には内科系施設の回答が反映</p>	<p>されていない結果であることに注意が必要である。</p> <p>E. 結論 NCDを応用したウェブアンケート調査は、癌診療ガイドライン遵守状況の調査に有用である可能性がある。</p> <p>F. 健康危険情報 記入なし</p> <p>G. 研究発表 1. 論文発表。 ① Eguchi H, , Shimosegawa T (last author). Clinicopathological Characteristics of Young Patients With Pancreatic Cancer: An Analysis of Data From Pancreatic Cancer Registry of Japan Pancreas Society. <i>Pancreas</i>. 2016 Nov;45(10):1411-1417. 2. 学会発表 ①海野倫明、水間正道、下瀬川徹. 膵癌診療ガイドラインとそのアウトカムの検証. 第54回日本癌治療学会学術集会シンポジウム23. 2016年9月 ②Mizuma M, , Shimosegawa T. Japan Pancreatic Cancer Registry of Japan Pancreas Society: Comparison between the conventional database and National Clinical Database (NCD). 17th International Association of Pancreatology. 2016年8月</p> <p>H. 知的財産権の出願・登録状況 （予定を含む。） 1. 特許取得 なし 2. 実用新案登録 なし 3. その他 特になし</p>
--	--